

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】令和 3 年 10 月 28 日 (2021.10.28)

【公表番号】特表 2020-535040 (P2020-535040A)

【公表日】令和 2 年 12 月 3 日 (2020.12.3)

【年通号数】公開・登録公報 2020-049

【出願番号】特願 2020-517796 (P2020-517796)

【国際特許分類】

B 2 9 C 44/28 (2006.01)

C 0 8 J 9/06 (2006.01)

C 0 8 J 5/14 (2006.01)

B 2 9 C 59/04 (2006.01)

B 2 9 C 44/00 (2006.01)

B 2 9 C 48/13 (2019.01)

B 2 9 C 48/88 (2019.01)

B 2 4 B 37/24 (2012.01)

B 2 4 B 37/26 (2012.01)

【 F I 】

B 2 9 C 44/28

C 0 8 J 9/06 C E R

C 0 8 J 5/14 C E Z

B 2 9 C 59/04 Z

B 2 9 C 44/00 E

B 2 9 C 48/13

B 2 9 C 48/88

B 2 4 B 37/24 B

B 2 4 B 37/26

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 9 月 15 日 (2021.9.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

最大 25 , 700 マイクロメートルの厚さを有し、互いに反対側にある第 1 及び第 2 の主表面を有し、前記第 1 の主表面から少なくとも 100 マイクロメートル延びるか又は前記第 1 の主表面に少なくとも 100 マイクロメートル入り込むフォームフィーチャを備え、 - 125 ~ 150 の範囲のガラス転移温度 T_g を有し、互いに反対側にある前記第 1 及び第 2 の主表面は露出した内部多孔質セルを含まず、各主表面の面積の少なくとも 40 パーセントが、硬化したままの表面を有する、ポリマーフォーム層。

【請求項 2】

少なくとも 1 つの拘束層と、

少なくとも 1 つの散逸層と、

請求項 1 に記載の少なくとも 1 つのポリマーフォーム層を含む、少なくとも 1 つの動的スペーサ層と、

を含む多層減衰材料。

【請求項 3】

ポリマーフォーム層の製造方法であって、

主外周面を有する回転ツールロール、及びダイリップを有する押出ダイを準備することであって、前記押出ダイは、前記ツールロールと前記押出ダイとの間にギャップを形成するように前記ツールロールに近接して間隔を開けて配置されている、準備することと、

発泡剤を含むポリマーを、前記ツールロールの前記主外周面の一部の上に導入することであって、前記主外周面の一部が、請求項 1 に記載のポリマーフォーム層をもたらすように前記ダイリップに近接している、導入することと、

を含む方法。。